

令和6年 11月 27日

東松島市議会議長 小野 恵 章 様

(会派名) 清 新 会

代表者氏名 阿 部 勝 徳

### 会 派 活 動 実 施 報 告 書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目（該当を○で囲む）

調査研究費、  研修費、  広報費、  広聴費、  要望・陳情活動費、  会議費

2 活動名称： 視察研修

3 実施期日： 令和6年10月28日（月）～令和6年10月31日（木）

4 活動成果：

- ・豊後高田市、臼杵市における移住定住政策について研修した。両市とも、宝島社「田舎暮らしの本」の住みたい田舎ベストランキング上位に入っており、移住定住の促進については単なる補助金だけではなく、いかにまちの魅力を高めていくかも重要であることを再認識した。
- ・西予市の市役所オフィス改革について、市役所業務効率化を図るための、先進的で大胆な取り組みについて学んだ。

5 添付書類： 視察研修報告書



研修先：大分県豊後高田市、臼杵市、愛媛県西予市

期間：令和6年10月28日（月）～10月31日（木）

10月28日 大分県豊後高田市

【研修事項】移住定住施策の取り組みについて

豊後高田市は大分県の北東部、国東半島の西側に位置し、大分市まで約60km、北九州市まで約90kmと両市に比較的近い距離にあり、豊かな自然と温暖で過ごしやすい瀬戸内式気候に属している。都市部への人口流出により過疎化・高齢化が進行したため、平成17年3月 豊後高田市と真玉（またま）町、香々地（かかじ）町の1市2町の合併により発足している。現在の人口は2万1700人、世帯数は1万1千戸、面積は206㎦である。人口は合併から20年間に約2千人減少し、高齢化率は38.2%に。10年前（平成26年）との人口比較で、減少率は旧豊後高田市－3.56%、旧真玉町－13.13%、旧香々地町－23.08%となっており、旧町地域の減少率が高い。

一方で、転入者数、転出者数の推移では平成26年から令和5年までの10年間、各年とも転入者数が転出者数を上回って（+148人～+7人）おり、747人の社会増となっている。県内の人口移動の状況では、大分市、豊後高田市、中津市、日出町が転入超過となっており、中でも豊後高田市は県外からの転入者が多い傾向にあるのが特徴。

定住人口増の大きな要因は、各種の定住支援制度もさる事ながら、温暖な気候、山・里・温泉などの自然や景観に恵まれ、災害が少ないことによる。また、働く場所として市内には製造業の工業団地があり、隣接する宇佐市、中津市への通勤者も多い。

重点施策の子育て支援では、高校生までの医療費無料、学校給食費無料、市内保育園保育料と幼稚園授業料無料、妊産婦医療無料、高校授業料無償化、子育て応援入学祝い金は小・中・高校入学ごとに5万円給付、高校生までの入院時の食事代無料化を実施。加えて令和4年からは、子育て応援誕生祝い金 最大200万円（第5子）支給するなど、「トップクラスの支援」としている。

また、市外（県外）からの引っ越しや、Uターンする個人・世帯に対して各種の応援金（奨励金）も給付している。住宅施策では、民間により定住促進住宅団地を開発分譲しており（3～4万円/坪）45歳以下にはリース制度もある。他に、新婚向け住宅、子育て応援住宅等も整備、一方で、空き家活用住宅（賃貸）も提供している。

極めつけは土地代無料の『定住促進無償宅地』（面積100坪35区画）を提供、完売により第2期の計画を現在進行中としている。

空き家バンク事業の取り組みは、登録のうえ有効活用を図るためのリフォーム改修費用の2分の1助成（上限40万円）、不要物撤去（同10万円）、ハウスクリーニング（同3万円）等の支援を行っている。説明によれば、これらの各種応援施策の財源は、国からの交付金とふるさと納税を充当しているとの事。

豊後高田市は、農村景観や海・温泉もあり、観光客を呼び込むレトロな昭和の街並みを保存する地区もあり『住みたい田舎ベスト3の町』と称されている。

10月29日 大分県臼杵市

【研修事項】定住移住施策の取り組みと食文化・有機農業について

臼杵市は大分県の南東部に位置し、豊後水道に面して一年を通じて黒潮の影響を受け、南海型気候で穏やかである。平成17年に臼杵市と野津町が対等合併し、現在の臼杵市が誕生、人口は3万5300人、世帯数は1万6900世帯、面積291km<sup>2</sup>。

リアス式海岸の臼杵湾で豊富な水産資源に恵まれ、市の南西部に広がる広大な田畑において積極的な有機農業が取り組まれており、一方、古くから醸造業、造船業が盛んで地場企業が多数残っている。

臼杵市の人口は2014年の4万1300人と比べて約6千人減少し、高齢化率も35.2%から41.4%に上昇。人口減少・少子高齢化を食い止めるには、市の特長を活かしたまちづくりを図るとして、平成26年に「臼杵市まち・ひと・しごと創生本部」を設置して移住定住促進に取り組んだ。移住・定住の相談窓口を設け、定住支援員を配置、移住支援補助制度もスタートさせた。具体の支援施策では、空き家バンクへの登録で各種情報を提供発信。他に、住宅改修やリフォームへの補助、家財処分費への補助等を実施して登録件数、成約件数も年間40～50件に。移住前にお試し（宿泊）モニターツアーを年3～4回実施している。移住支援では、定住促進住宅取得補助金（三世帯家族の新築・購入に100万円以内、同居家族支援は50万円以内、若年・子育て世帯は20万円以内＋各種加算それぞれ10万円ずつ支援）、また新婚世帯の定住を支援する各種補助金もある。一方で、若年・子育て世帯家賃補助（単身者、若年夫婦、中学生以下の子育て各世帯に月額1万5千円以内を24月まで補助）を実施。これら補助制度の活用により移住世帯は年間で約100件、移住者は約230人として、40代以下の若者世帯、子育て世帯が多い傾向にある。また、移住後の仕事は市内・市外がともに半数で、市外の勤務地は大分市が多い。

有機農業の推進では、有機農業を目指す方にファーマーズスクールや地域おこし協力隊、アグリ起業学校の就農支援制度を実施、研修後に独立・自営農家として農業に従事しており、平成26年度から令和5年度までに56世帯100人が新規就農者として移住した。

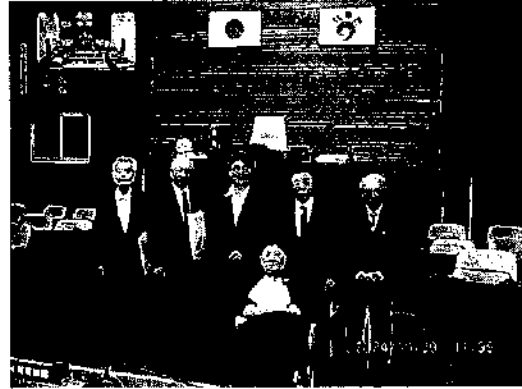
また、子どもたちの健全育成、農業への理解を養うため、地元農家が生産した“給食畑の野菜”を学校給食に取り入れたり、無農薬で化学肥料一切を使わない『ほんまもん農産物の認証制度』も行っている。

一方で、大分県が国の「創造都市ネットワーク日本」に加盟していることから学び、そこに「食文化」の部門があるとして、臼杵市の発酵・醸造文化、郷土料理を含む料理文化や完全堆肥による土づくりで生産される「ほんまもん農産物」、豊後水道で水揚げされる地魚などの“素材”をもとに「創造都市ネットワーク」の食文化分野に加盟認定された。

定住化促進のため、宅地開発により居住場所を準備、加えて、さまざまな支援制度を構築、積極的に移住者を呼び込んでいる。



【臼杵市の担当者から説明を聴取】



【議場を視察】

10月30日 愛媛県西予市役所

【研修事項】市役所オフィス改革について

西予市は愛媛県の南西部に位置し、平成16年4月に東宇和郡の明浜町、宇和町、野村町、城川町と西宇和郡の三瓶町の5つの町が合併して誕生。人口は3万3900人、世帯数は1万7200世帯、面積は514㎢で県内2番目の広さを有し、その内75%を山林が占めており、西部はみかんの段々畑とリアス式海岸が広がり、東は山地を隔て高知県に接する広大な土地で1次産業を中心に行われている。

研修はデジタル推進課の上甲宏之課長補佐による講話を聴取した。西予市では、人口減少・財政悪化と職員数の減少があり、一方で市民サービスは多様化し、さまざまな業務・課題を解決するには生産性向上が必用であり、このことは市役所内の業務効率化を図ること＝「オフィス改革」の取り組みとなる。従来はデスクトップパソコン、紙の書類や資料が机に山積みされ、固定席での仕事などこれらは「昭和な」仕事スタイルだとする。

平成26年度から取り組みを開始、部・課のレイアウト変更、会議資料のデジタル化、テレビ会議、袖机の撤去なども実施。試行を繰り返しながら意識改革もすすめた。書類や書棚、仕切り代わりにキャビネットが無くなり、机はノートパソコンを載せるだけの簡易なタイプに。部・課のフロアでは、机は窓や廊下と直角の配置ではなく、斜めにつながっている配置もあり。会議（ミーティングエリア）は解放されたスペースにテーブルを置き、背もたれのない丸いすを設置している。こうしたオフィス改革により、職位が異なる職員の会話が数倍増加しているとし、また、仕事は自席の個人机に限られた働き方から、業務に応じて最適な場所を選んで働くやり方になっている。庁内では電子決済、ペーパーレス化の積極的展開を実施。一方、住民への対応も総合窓口を設置し、手続きのために市民が窓口間を移動することは無い。個別案件の対応では「個別窓口」を設置、プライバシーに配慮した仕切りを設け、システムを使って担当者への連絡などによって市民サービスを行っており、窓口に来た住民から大変喜ばれているとのことである。

「昭和な」仕事スタイルの概念しか無い者にとってはかなりの驚きであった。オフィス改革は必至であり、本市も遠くない将来にこの様な変革が実現されるべきと強く意識した。



【担当者からの説明を聴取】



【フロアの状況・視線を遮る工夫も】



【ミーティングエリアは各階に数カ所】



【窓際に配置された執務デスク】